



議会だより

9月定例会号

令和6年10月25日発行

No.170

こうみ



第55回花卉園芸品評会

町のお金はこのように使われました ②

9月議会 —第3回定例会—

こんなことが決まりました ④

議案質疑 ⑥

一般質問 ⑦

視察レポート ⑫

編集後記 ⑮

きかせて みんなの夢

みなさんの未来に寄り添うために

令和5年度 町のお金はこの

ように使われました 成果を認定

令和5年度一般会計決算

歳入 47億589万円
差引額 2億5,799万円
歳出 44億4,790万円

〈一般会計〉 おもな使いみち

町民1人当たり
1,035,118円
(人口4,297人)

総務費

- ・本間村上団地舗装、公園整備工事他 2,714万円
- ・小海駅周辺活性化事業 1,912万円
- ・小海駅運営費 1,692万円
- ・ゼロカーボン促進事業 770万円

民生費

- ・町民生活支援事業 1億2,866万円
- ・緊急支援給付金 6,806万円
- ・やすらぎ園関係工事 2,200万円
- ・保育園屋根改修工事 1,716万円

衛生費

- ・健診・各種予防接種 3,188万円
- ・保健師出向負担金 716万円
- ・ごみ処理関係 8,044万円



農林水産費

- ・県営畑かん整備事業負担金 5,417万円
- ・八ヶ岳線改良工事(繰越含む) 4,858万円
- ・直売所指定管理料 910万円
- ・そば、鞍掛豆購入費 793万円
- ・ワイン用ぶどう栽培関係費 188万円

商工費

- ・中小企業振興資金斡旋事業 4,500万円
- ・事業者経営継続支援事業 1,630万円
- ・物価高騰対応重点支援事業 933万円
- ・八峰の湯運営費 2億3,077万円

土木費

- ・道路改良舗装費 1億7,694万円
- ・道路維持修繕費 3,156万円



消防費

- ・佐久広域連合他負担金 1億1,940万円
- ・防火水槽設置(大畑) 627万円



教育費

- ・音楽堂屋根修繕工事 1,848万円
- ・公民館改修補助(笠原公民館) 468万円



公債費

- ・元金、利子返済 5億107万円



各会計 特別会計 決算額

国民健康保険
事業特別会計
歳入 4億9,567万円
歳出 4億8,299万円

介護保険事業
特別会計
歳入 7億300万円
歳出 6億8,146万円

中学校組合会計決算額
歳入 1億7,393万円
歳出 1億6,872万円

後期高齢者医療
特別会計
歳入 7,931万円
歳出 7,927万円

水道事業会計
(収益的収支)
歳入 9,241万円
歳出 9,305万円

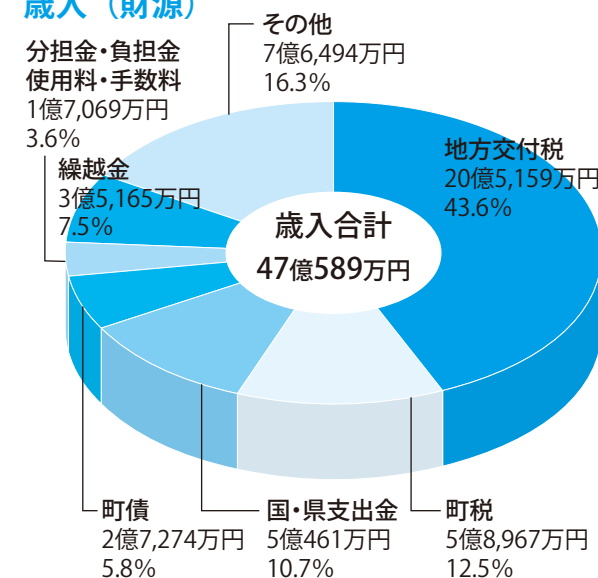


●令和5年度決算概要

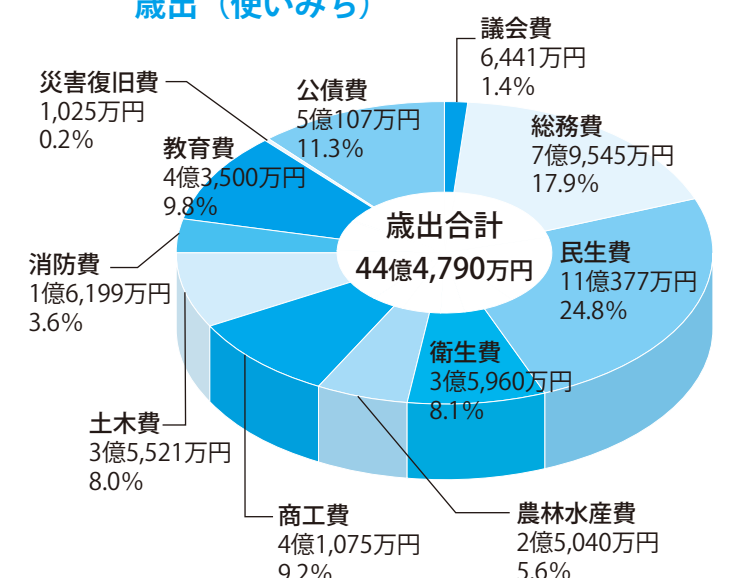
一般会計の歳出は約44億4,790万円となり、令和4年度と比べて5億9,216万円、11.7%減となりました。歳出の主なものは、小海駅周辺活性化事業、本間村上団地舗装・公園整備事業(繰越含む)、ゼロカーボン促進事業、物価高騰対策による町民生活支援・経営継続支援事業、やすらぎ園施設改修工事、保育園屋根改修工事、八ヶ岳線改良工事、小海大橋補修工事、音楽堂屋根修繕工事などです。令和4年度と比較して減額となった理由は、総務費、商工費、災害復旧費の減額によるものです。

決算議会
9月定例会

歳入(財源)



歳出(使いみち)



わがや 小海町家の 家計簿

～小海町の令和5年度決算を
500万円の家計に例えると～

収入

給与収入(町税)	63万円
一時的な手当	
(譲与税、各種交付金、国・県支出金他)	111万円
パート家賃収入	
(分担金及び負担金、使用料及び手数料等)	18万円
預貯金の取り崩し(基金繰入金)	23万円
前年度からの繰越金(繰越金)	38万円
親からの援助(地方交付税)	218万円
住宅、車、生活資金のローン(町債)	29万円
合計	500万円

支出

食費(人件費)	91万円
医療費(扶助費)	31万円
光熱水費や生活消耗品など(物件費)	108万円
住宅の増改築や車のローン返済(建設事業費)	52万円
住宅、車のローン返済(公債費)	56万円
子どもへの仕送り(他会計への繰出金等)	27万円
自治会費などへの支出(補助費等)	86万円
維持補修費他(災害復旧費他)	11万円
預貯金他(積立金他)	38万円
合計	500万円

9月議会第3回定例会で

こんなことが決まりました

陳情

●女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める陳情
陳情者 佐久地区平和・人権・環境労働組合 議長 井出 典男
長野県憲法擁護連合 代表委員 松澤 佳子
継続審査となりました

●政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増を求める陳情書

小海町国民健康保険条例の一部を改正する条例について
いずれもマイナバー関係法令の改正により、令和6年12月2日以降、被保険者証が発行されなくなるに伴う改正です。
いずれも賛成多数で可決

小海町医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について
小海町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
いずれも賛成多数で可決

保育所等における満3歳以上の児童に係る保育士・保育従業者等の配置基準を改正するものです。
全員賛成で可決



議員発議

●刑事訴訟法の改正によるえん罪被害者の速やかな救済を求める意見書
賛成多数で採択し、関係大臣に意見書を提出しました。

●政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増を求める意見書
全員賛成で採択し、関係大臣に意見書を提出しました。

陳情者
長野県医療労働組合連合会 執行委員長 小林 吟子
全員賛成で採択

●刑事訴訟法の改正によるえん罪被害者の速やかな救済を求める陳情書
陳情者 日本国民救済会佐久支部 支部長 井出 節夫
賛成多数で採択

第3回定例会で賛否が分かれた議案・陳情

(委員長報告に対しての賛否) (○は賛成 ×は反対)

(議員氏名)	黒澤 敦史	鷹野 文則	篠原 哲雄	井出 和人	渡邊 晃子	的 埜 美香子	井出 幸実	品田 宗久	小池 捨吉	篠原 伸男	有坂 辰六
(議案名簿)											
小海町医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	×	×	○	○	○		
小海町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	×	×	○	○	○		
令和6年度小海町一般会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	×	×	○	○	○		
令和5年度小海町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	×	○	○	○		
女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める陳情(継続審査)	○	○	○	○	×	×	○	○	○		
刑事訴訟法の改正によるえん罪被害者の速やかな救済を求める陳情書	○	○	○	○	○	○	○	×	○		
刑事訴訟法の改正によるえん罪被害者の速やかな救済を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	×	○		

現地視察



令和6年度一般会計補正予算(第2号) 賛成多数で可決

2億2,623万円を増額 総額46億8,958万円

【歳出の主なもの】

- 個人情報点検監査支援事業 286万円
- 物価高騰対応重点支援事業 1,188万円
- 児童館用地購入費 1,235万円
- 新型コロナ予防接種事業 1,463万円
- 草刈窪トラックスケール更新工事 410万円
- 土村相木線補償料 2,530万円

【財源の主なもの】

- 繰越金 1億9,173万円
- 物価高騰対応重点支援地方創成臨時交付金 1,188万円

令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号) 全員賛成で可決

50万円を減額 総額5億1,774万円

令和6年度介護保険事業特別会計補正予算(第1号) 全員賛成で可決

2,049万円を増額 総額7億3,708万円

(追加議案) 令和6年度一般会計補正予算(第3号) 全員賛成で可決

1,484万円を増額 総額47億442万円

【歳出の主なもの】

- 町民生活応援事業 866万円
- 町民応援タクシー券事業 310万円
- 小海小学校施設修繕費 308万円

契約議決

建設工事請負契約の締結について

橋梁補修工事 小海大橋
契約金額 6,380万円
契約相手 株式会社新津組
全員賛成で可決

条例等改正

長野県後期高齢者医療広域連合規約の変更について

マイナバー関係法令の改正により、令和6年12月2日以降、被保険者証が発行されなくなることに伴う事務規約の変更です。
全員賛成で可決

特別職の職員で常勤の者等の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

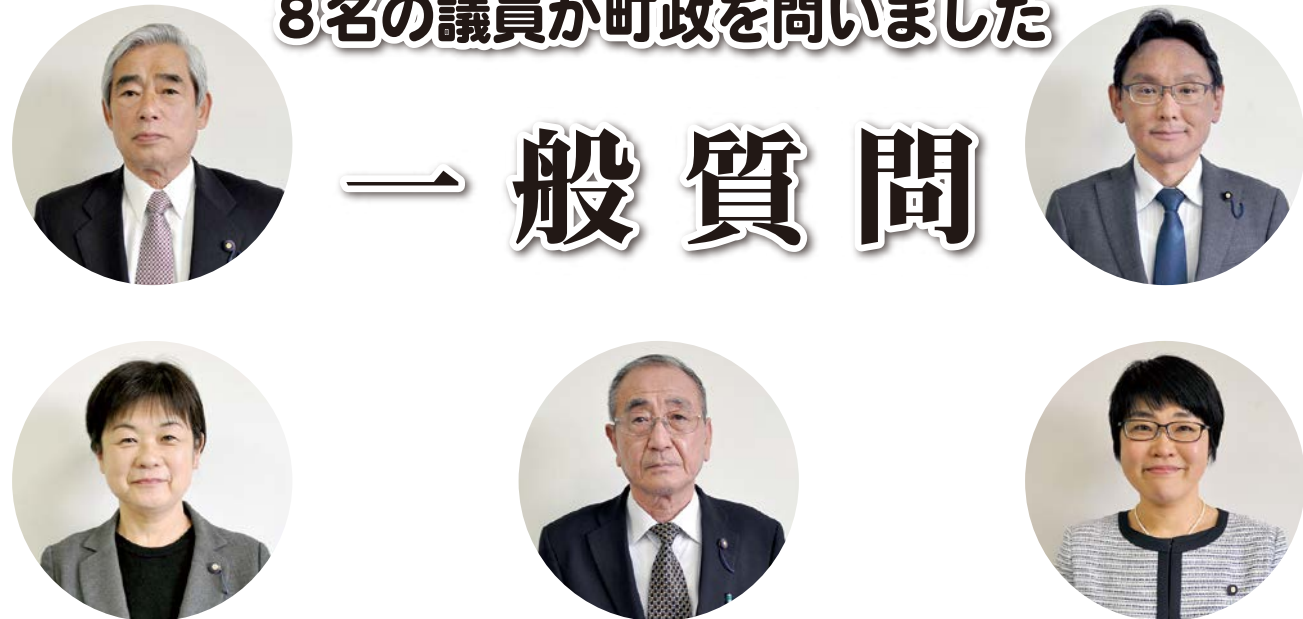
いずれも宿泊費について県内は12,000円、県外は14,000円を超える場合には、上限を20,000円として実費を支給することができるものです。

令和6年第3回小海町議会定例会が9月2日から9月20日までの19日間の会期で開催されました。契約議決案1件、条例等改正案6件、補正予算案3件、決算認定5件、陳情3件、追加議案として、発議2件、補正予算案1件の合計21件で審議が行われ、陳情1件を除くすべての案件が可決・認定されました。一般質問は8名の議員により行われ、町の考えをいただきました。



8名の議員が町政を問いました

一般質問



- ご不明な点は議員にお尋ねください。また正式な記録は町ホームページにある会議録をご覧ください。
- 町のホームページで音声データを聴くことができますので是非お聴きください。



音声配信QRコード

8ページ	行政を預かる者は常に前向きな姿勢を	小池 捨吉
9ページ	本間特定空き家行政代執行の考えは	篠原 哲雄
10ページ	猪名湖周辺湖畔遊歩道の森林整備について	鷹野 文則
11ページ	人生100年時代のまちづくりについて	品田 宗久
12ページ	休日夜間議会の開催に向け町長の見解は	黒澤 敦史
13ページ	町の計画行政これでいいのか	的埜美香子
14ページ	鹿よけグレーチングの設置を	井出 幸実
15ページ	防災専門の職員が必要では	渡邊 晃子

○一般質問とは

定例会において、議員が町の施策の状況や方針などについて、報告、説明を求めたり質問することをいいます。

議案質疑

- 小海町医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について
- Q 被保険者証を資格確認書等に改めるとありますが、何を考えればよろしいか？
- A 資格確認書以外には、被保険者であることを証する書類となります。
- 令和6年度一般会計補正予算（第2号）関係
- Q ふるさと寄付金の事業委託料とは？
- A この3年間のふるさと寄付金が減少傾向にあるため、返礼品等を含めて見直しを行うものです。
- Q アルルキッズスペースの遊具購入とは。また、現在の利用状況は？
- A 天井から吊るすスイング式の遊具等3基の購入を予定しています。1日2、3組の利用があります。
- Q トラックスケール更新に伴う草刈窪処分場の今後の状況は？
- A 佐久クリーンセンターの状況や災害ごみの仮置き場としての利用を想定しており、閉鎖の考えはありません。
- Q 高齢化する猟友会員のバックアップを？
- A 鳥獣害対策に向けて協力していただける体制をつくっていききたい。

- 令和5年度一般会計決算関係
- Q 森林環境譲与税基金の使途は？
- A 森林所有者に対する意向調査に向けて、基礎となる森林の状況調査を行います。
- Q 河畔林整備事業の実施箇所は？
- A 馬流区木の木沢の堰堤前後300mを予定しています。
- Q 保育料が倍近くなった原因は？
- A 所得に応じた保育料の計算により、令和4年度と比べ件数自体が増えたためです。
- Q 地域プロジェクトマネージャーによる成果はどのようなものか？
- A 新しく町で取り組んだゼロカーボン推進事業です。
- Q 小海駅周辺活性化事業のグランドデザインはどうなっているのか。長期振興計画との関係は？
- A 以前実施した町民アンケートの結果も踏まえて、現在策定中の長期振興計画へ反映させる予定です。
- Q 地球温暖化対策実行計画とは何か？
- A 町として、太陽光・EV車・LEDの導入を進める計画になります。



- Q 八峰の湯食材料の原価率が50%を超えているが、目標基準はあるのか？
- A 目安は40%ぐらいかと考えますが、改善できるよう検討します。
- Q 造林事業の高上げ補助については、森林所有者へ支払う形にしてみたいか？
- A 仕組みについて検討します。

問 本間特定空き家行政代執行の考えは

答 町長 全ての手続きを踏んで、状況が整えば進めます



小池 哲雄 議員

問 本間特定空き家について
答 町長 法定相続人対象者は、現在何名なのか。今年度中に解決するのか現状説明を。

総務課長 35名の法定相続人も、25名が相続手続きが済み10名の方になり、その方々と丁寧な折衝を進め、近隣住民の方の不安も大きくなっている。なるべく早く解決できるように尽力します。期限については今年度・来年度という話はまだできない状況です。

問 前回は空き家行政代執行

問 松原湖スケートセンターの継続について
答 町長 助言・指導・勧告・命令というような手続き、さらにいろいろな手続きを踏んだ中で、あと税金関係とか出てきますけれども、私はいったものが済めば、私は町で代執行をした方が前に進み危険箇所を何か所でも無くせると思います。

茅野市・岡谷市両スケートの継続について

問 スケートセンターを南佐久6町村で連携して運営したらどうか。
町長 スケートセンターは2町4村の文化であります。日頃から連携と協力を申しております。条件等時間をかけて協議を進めてまいります。

町長 私はスケートセンターを継続するつもりです。経済的に大変なことはわかっていますが、これを押し進める強い気持ちがないと駄目になる。何より底辺拡大のために教育の中でスケートの在り方を考えていくべきではないかと思っています。



松原湖スケートセンターのグラウンド

総合グラウンドの有効活用は
問 今年もソフトボール八峰サマーカップ2024が、県内外から女子高生10校が参加し開催されました。今後小海町を夏のソフトボールのメッカにし誘致をしたらどうか。
教育長 関係人口・交流人口の創出を目指して「憩うまちこうみ」のような事業に積極的に取り組み、各課の連携連絡等相互協力の持てる組織をつくりながら町づくりを進めることが大切であると考えます。

問 行政を預かる者は常に前向きな姿勢を

答 町長 現状を把握し対処したい



小池 哲雄 議員

問 昔から各地区にあった湧水、井戸水を地区が整備し、町が水質検査をして生活用水として活用することはできないか。整備した箇所には助成金を出せないか。
産業建設課長 井戸水、湧水について懸念があります。水質検査をすると大腸菌、有害物質が含まれており、町として責任は取れないと言うことと、助成金を含め無理です。

町長 地域の資源を生かした防災対策にもなるかと思いますが、飲料水として使えませんが、

問 上入沢の水について伺い
答 町長 今迄の水道管はダクタイル鉄管でしたが、現在はGXというトンネル型で継目が伸縮管です。町では順次GX管に敷設替えをやっています。上智水源を切り回せば本間迄、五箇水源を切り回せば馬流迄は利用可能です。

産業建設課長 今迄の水道管はダクタイル鉄管でしたが、現在はGXというトンネル型で継目が伸縮管です。町では順次GX管に敷設替えをやっています。上智水源を切り回せば本間迄、五箇水源を切り回せば馬流迄は利用可能です。

問 国道141号線、鎚掛
答 町長 関係各位と相談し過去の経過協議をふまえ、飲料水として使えればそれ以上のことではないと考えております。

問 上入沢水源の契約ですが、設備維持管理費について、今迄は全て小海町負担。今後は海尻区にも負担してもらおうと共に、水の分配率についても協議をされたい。また飲料水として使用できるよう要望します。



鎚掛洞門前の歩道

産業建設課長 海尻地区では松原分水地、分水後、飲料水として利用したとの経緯はありますが、小海としては緊急時以外に使用する事は無理です。

産業建設課長 車道、歩道間のガードレール設置については道路構造令に基づいて車両用の防護柵の必要性が問われます。危険箇所などについては県の方と協議いたします。

問 鎚掛洞門間の管理について伺います。以前は歩道に植木もありましたが現在は全て歩道になりました。車道と歩道の間に2段のガードレールの設置を要望しますが。

問 人生100年時代のまちづくりについて

答 町長 「挑戦・新鮮・実行」行政を進めます



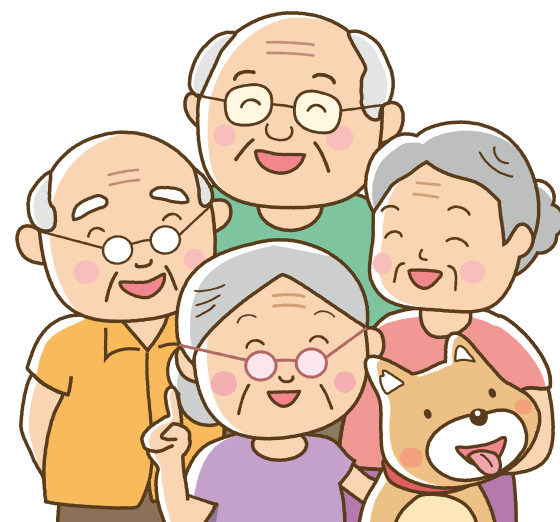
しな た むね ひさ
品田 宗久 議員

問 日本の高齢化率は65歳以上で30%です。世界トップの高齢化先進国でありながら、20歳から60歳のアンケートでは世界で断トツの100歳まで生きたくないという国です。これは日本が今、物質的には豊かになつたけど、心の不安、年金問題と健康問題とか将来の不安があり、高齢者が輝いていない幸せそうに見えないからではないかと思えます。日本は人生100年時代になつても、今までの人生60年時代の

駅周辺活性化事業
に 関 して

制度や仕組み、また価値観や考え方であり、過去の延長線で生きている大人達に問題があるのではないかと思います。小海町の高齢化率は41・7%です。私はこの人達の積極的な社会参加が必要だと思えます。社会参加こそが最大の介護予防です。町民全員が社会と関わりを持って、人と人がつながって生きがいや楽しさを見出し、一人一人が地域のためにやりたい、誰かのためになりたいたいという環境をつくり共助のコミュニティを創ることが必要だと思います。そこで提案したいのがアルル

の中に街中映画館というかミニシアターを造ってほしい。今、情報化、価値観が多様化している中で、それぞれが受け取っている情報が皆さん違います。異なった考え方の人達が一緒に同じものを見て議論し話し合う。SDGs、地球温暖化、教育問題、ジェンダー、少子高齢化、健康問題など、みんなで同じものを見て情報を共有しながら違いを認め合うことで仲間意識ができて、同じ方向を向いて行動することができるようになる。みんながやってみようから、自分の頭で考えて行動する仕組みづくりが必要だと思います。元気なまちづくりのために世代を超えてみんなで力を合わせて前に進んでいく。そんな気軽に誰もが集える場、人が集まる仕組みを作ってください。



町長 アルル内にミニシアターというものが、今初めてお聞きしましたが、一考させていただけます。また面倒見てもらうんじゃなくて、面倒を見るところという気持ちになると、ことが健康の秘訣で若返ると、私ももちろんその通りだと思えます。今ブランドデザインということで進めておりますので、そういった考えも十分取り入れて進めていきたいと思えます。

問 猪名湖周辺湖畔遊歩道の森林整備について

答 産業建設課長 現況を把握し環境整備の事業認定に向け準備を進めていく



たかの ふみのり
鷹野 文則 議員

問 本年2月に雨水により、大木が十数本倒れ、そのうちの1本は旅館の屋根を直撃し大きな被害をもたらしました。雨水以外にも昨年今年と巨木の倒木が続いて起きています。木が大きくなり、根が幹の重量に耐えられなくなつてきていると推察されます。遊歩道には大勢の方が松原湖の自然と親しむため活用されています。町有地ではありませんが、遊歩道は町が整備した物であり管理責任があるなか、重大な事故に繋がりがかねません。については、遊歩道での事故の起きる前に、枝払いをし、支

障がある木は間伐して、国定公園の自然を保護していくため森林整備を行うべきだと考えますが如何でしょうか。また、当該地区は国定公園内にあり特別地域にあたると思いますが、規制はありますか？

産業建設課長 立ち木等の管理については、原則、所有者が適正に管理することになっていきます。これは、国定公園に限らず、町内の道路に倒れた木は所有者がある場合には所有者の方で伐採、片付け等をしていただく処理になっていきます。猪名湖周辺は国定公

園内にあって国定公園第2種特別地域の指定を受けています。一般建築物、工作物の建築、土地の形状変更、木竹伐採が制限されています。また、許可基準についても地番ごとに異なっています。今年の倒木以外にも、平成19年か20年にも雨水による倒木がありました。倒木被害が相次いでおります。町でも対応の緊急性重



2月の雨水による倒木

要性を感じていきます。しかし、巨木が多く重機等機械が入らないことにより伐採費用も高額になります。町の単費では限界があり現在佐久地域振興局と協議しています。森林贈与税を使つた事業や自然公園移設事業など関係機関と協議しながら検討しています。補助事業に関しては危険木の伐採枝払いのみを対象にした事業はありませんので、国定公園全体の自然環境整備計画を策定し、国県の事業認定を受けていくこととなります。町も現況を把握したうえで必要性緊急性を環境整備の予算計上を進め、県の協力を仰ぎ事業認定に向け準備を進めていきます。

問 町の計画行政これでいいのか

答 町長 一つの方角づけしたものをご審判いただく



まとの 美香子 議員

問 公園整備事業、初めは誰でも集える公園整備で総務課だったが、子育て支援課に移り、今回の長振計画（案）では都市公園整備（産業建設課）と新規事業で載っている。R2年度、3年度までの調査結果はどうなったのか。

総務課長 確かに担当部署がはっきりしない部分で、振り返るとあると思います。ちびっこ広場を整備した経緯、松原方面がいいのか、町中がいいのか議論もし、現在は松原で考えています。子育て支援と観光振興の両建てで進めていきたいと考えています。

問 長期振興計画で一旦計画はなくなったが、再び5、6年度に松原湖高原公園整備事業でアスレチック他改修整備5300万と記載。そして翌年の長振ローリングで6、8年度計画でバタゴルフ場を公園化公園整備1億。そして突如（仮称）八峰公園整備基本計画総事業費2億9000万円に記載。計画だけが毎年ころころ変わっていく、議員

問 児童館の敷地拡張、増設ということだが、どこに不備があつて、どのようにしたいのか。

子育て支援課長 館内、事務所、勉強する部屋、遊戯室と小学生が放課後来て、館内で過ごす部屋がそもそも少なく、全体的に増築したい考えです。



問 以前から児童館の中では個別の相談がしにくいとの声が。対応は。

子育て支援課長 相談できる部屋を設けられるよう検討しております。

問 温泉、バイオマスボイラーの検討結果と今後の考えは。

産業建設課長 燃料費は温泉経費の中では一番掛かっているところなので、エネルギー問題等考えて、今後進めていきます。

問 休日夜間議会の開催に向け町長の見解は

答 町長 議会側の姿勢次第で町は対応できます



くろさわ あつし 議員

問 より多くの町民の方が議員に立候補し、政治を活性化させていくことについて、その手段は試行錯誤を重ねながら取り組んでいくものであるうと思います。まずは議会定例会の日程のうち、傍聴しやすい「議案質疑」や「一般質問」を試験的に休日や夜間に開催してはどうかでしょうか。議会に出席する職員も課長級だけでよいはずですか。

問 私はこの3か月ごとにしか行われない定例会に係る役場の負担増という問題は、それを導入した結果見込まれる効果に対して、圧倒的に小さなものではないかと認識して

休日夜間議会の導入に向けて

どの範囲で、また休日夜間議会が開催される場合に増えると思定される人件費はどの程度のものでしょうか。

総務課長 管理職である課長の職員は残業、休日出勤手当はありません。町の負担増として、他には冷暖房等の光熱水費の増が見込まれます。

います。この増えるであろう町の負担は、一般的に平日昼間は仕事をしている人が、今まで以上に政治に参加し、より良い未来を目指していくためには許容されるべきもので、参加しやすい議会を作るため、十分対応いただけるものではないでしょうか。

町長 休日や夜間でできないことはないと考えます。導入に向けて議論を深めると、デメリットも必ず出てくると思います。議会の意見も拝聴しな



がら進めていきたいと思っています。議会側でやる気があるのであれば、町はいつでも対応できる気がします。

黒澤議員 議員のなり手が増え、より幅広い年齢層の議員が増えることは、議会の活性化、ひいては町の発展、町民の生活向上に繋がることだと思います。休日夜間議会の開催が、役場の負担増ができない理由とされぬよう、ぜひご協力いただきたいと思います。

問 防災専門の職員が必要では

答 町長 必要という事を見極め進めて行きたい



わたなべ あきこ
渡邊 晃子議員

問 2020年、内閣府男女共同参画局が「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」を作成。取組状況の調査も行っている。町は、防災計画や避難所等について、

町民課長 基本的に職員は災害対策本部が設置された場合には役場に参集、張り付いて頂きます。

問 災害対策本部について。消防団員、保護者であったりする職員はどう動くのか。

防災行政について

女性の参画や視pointsの考慮などされていない結果となっているが。

町民課長 防災計画、避難所その他につきまして、女性の視pointsは重要と考えておりますので、盛り込んでいく事は前向きに考えております。

問 (災害時要支援者の)個別避難計画は。

町民課長 相談員やケアマネ士にお願いしているが、本業の合間に作成するのは大変な状況。別の方法を考えています。

問 長野県教育委員会「学校教育における防災の手引」を出している。町はどうか。

教育長 災害支援などに興味を持ち、活躍する、そういう教育につながればありがたいと考えております。

渡邊議員 今後、町全体の訓練の一環としてやって頂きたい。

教育長 計画的に毎年実施をしていきたい。保育園・学校同じ日に実施することが一つの方策ではと考えております。

問 今年度初めて、5月に小・中、8月には保育園でも引き渡し訓練が行われたが。

問 障がいの特性やペット同伴など様々な事情で避難所へ行けない方も多いと思う。在宅・車中泊避難者については。

町民課長 新たな防災計画を立てる中で協議してやっていくべきと思っています。

渡邊議員 視察先の大槌町でも、中学生が避難所運営訓練を行い、地域の一人として行動できる実践力を養っている。町全体としても、避難所運営訓練を年3回など、数多くの訓練を、町民と一緒にやって行うことを重視しているという。小海町も、地区防災マップが全区でできるのを待たず出来た所から実施するなど実践的な訓練を。



問 鹿よけグレーチングの設置を

答 町長 知識を持った方に相談して、設置したいと思います



い で ゆ き み
井出 幸実議員

公衆用道路の個人名義について

問 町道の敷地内に個人名義の土地はありますか。

総務課長 現在、町道等の総延長300km以上あり、路線数も460を超えています。数多くの個人名義の土地が有ることを承知しています。

現在は、道路を新しく新設する事業はめっきり減ってきています。現状は用地交渉を行って、了解を得て移転登記を行っています。

問 「相続の登記の義務化制度」が施行されていますが、町では、今後どのように個人名義土地の対応をしていくのですか。

総務課長 公衆用道路の個人名義土地は、実際に売り買いをし、又は、寄付されたのに未登記のまま名義が変わっていない、2種類考えられます。町としては、話し合いの場所があれば寄付をお願いし、積極的に依頼したいと思っています。

井出議員 遅れば遅れるほど難しくなり、リスクが多く



鹿よけグレーチング (南牧村)

鹿よけグレーチングの設置について

問 道路に鹿よけのグレーチングを設置してほしい。一か所700万から予算が必要と思う

が、一か所だけでも試しに設置できないか。効果を見てほしい。

町長 知識を持った方がいますので、これは是非試すというか、相手に対する挑戦ですのでやってみたいと思います。

総務産業常任委員会 行政視察レポート

紫波町は岩手県中央部に位置し、東北新幹線紫波中央駅、東北自動車道紫波ICを有する交通に恵まれた町です。農業と林業の町でもあります。平成10年より商店街の空洞化対策として、駅前町有地を利用して開発が始まりました。平成13年第一次紫波町総合計画、環境循環基本計画、循環型まち

井出 和人

紫波町では平成12年に、100年後の子どもたちに紫波の環境をより良い姿で残すことを目標に平成13年には紫波町循環型まちづくり条例を制定し、「町民・企業・行政三位一体」の理念で有機資源は堆肥にして田畑に施用し、農作物を生産し、無機資源はごみの分別3R運動により「焼却ごみゼロへ」を目指して、森林資源の有効活用で公共施設、民間住宅等の建設には町産木材を使用し、町内の大工さんがベテランと若手のペアで作業することで技術の伝承、資源の循環、経済の循環と町民が主役の町民参加型の共同の町づくりを推進している。図書館、スポーツ施設なども充実している。子どもたちが自分から進んで学ぶ仕組み、環境が随所に感じられました。

盛岡から電車でも車でも20分位の立地でもあり、移住者が増えているのも納得で、子育てする環境が「やってくる」ではなく自分達から進んで自然に育まれるようにみんなで作りに上げている空気を感じました。

岩手県紫波町

品田 宗久

紫波町視察結果の感想について述べます。1998年より3年かけて紫波町総合計画・環境循環基本計画を策定して17年の歳月をかけ完成させた大規模な施設でした。この施策は町の資源・町の人材を十分把握・活用したとのこと。また「町民・企業・行政の三位一体」で将来の経費負担を考えNPO・企業・又はリース方式を取り入れた運営方法と

のことでした。これなら小海でも可能だと思

ったのは、森林資源の有効活用で暖房・冷房・給湯が出来る木質チップ焚き温



オガールアリーナ

小池 捨吉

農村と都市が共生するまち、若者、高齢者全ての希望を持ち安心して暮らせるまち、人も地球にも優しいまちを理念に開発した理想的な町でした。

づくり条例等、町民、企業、行政三位一体の理念を発表。これを実行するにあたり、共同の町づくりのため100回以上の懇談会を実施し、町民の同意が得られた。町有地10・7haの土地に、役場、小学校、保育園、町営住宅、フットボール場、小児科医院、教育サポート施設、アウトドアショップ、産直店、居酒屋等生活に必要なすべての施設が集中しています。

高畠町は山形県南部に位置し、「まほろばの里」とも呼ばれる人口22,000人弱の町です。「まほろば」とは、古事記などにみられる「まほら」という古語に由来する言葉で、「山や丘に囲まれた稔り豊かな住みよいところ」という意味を持つているとのこと。主要な農産物は米、ラ・フランス、ぶどうやりんご、また松茸の産地でもあります。日本三文殊の一つに挙げられる亀岡文珠をはじめ、「自然と歴史」を感じることが出来る町です。

現在の日本が抱える食と農業の問題に町を挙げて取り組んでおられました。昭和39年に地元的安全・安心な食料を学校給食に提供することを目的に「和田地区自給野菜組合」を組織、また昭和40年代から全国に先駆けて有機農業の取り組みをはじめます。そのような地域の歴史や文化が背景

山形県高畠町

黒澤 敦史



紫波町図書館

民生文教常任委員会 行政視察レポート

岩手県大槌町

篠原 哲雄

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町に行政視察に伺いました。大槌町は津波で人口の1割が尊い命を落とし、災害対応に当たっていた役場職員40人が犠牲になりました。東日本大震災から10年後に刊行された「大槌町役場職員」の書籍を拝読すると当日の悲劇に胸が締め付けられる思いです。震災後防災計画の見直しを図り、各種防災訓練の実施、自主防災組織連絡会を開催し防災意識・防災活動・防災教育の向上を目指す場とし、教訓として災害が起る前に決めることは決めておく、備えが重要であると感じた。当町でも大規模災害が発生する可能性がります。今回の大槌町の災害対応・教訓を研修させていただき、当町の防災対策に提言していきたい。



大槌町職員より当時の状況を伺う

井出 幸実

大槌町の人的被害は1,268人、家屋被害は4,248世帯に達したそうです。役場職員も約2割に当たる40人が犠牲となりました。人員不足の中、37カ所の避難所

を開設いたしました。町への要望や苦情が殺到し、それに応えられない悔しさ、周辺自治体の支援に感謝しきれません。被災前の人口は15,994人、被災後10,513人です。その後町長は講演で「我々の失敗というのは、災害を自分事として学んでこなかったこと、そして自分たちの危険や危機を気にしてこなかったことが大きな原因である」と語っています。私たちの支援する側は組織をあげて住民の身体・生命・財産を守らなければなりません。職員の命を守る取り組みがおろそかであったことが、被災対応の遅れの原因になったと思います。肝に銘じています。

いつ襲うかもしれない災害、どう行動すればいいのか、そして災害が起こる前に何をすべきなのか、重い課題を突き付けられた視察でした。

最後に大槌町の小学生の思いです。○学校を帰るとき、夕ごはんの支度をしていける匂いがいい。夕飯の支度をしている匂いがしてくるような匂いがいい。○初めてお父さんの涙を見た。つらい悲しいけれども、助け合わなければ生きていけない。

個人の被災地訪問。資料を事前に読ませて頂き、当時に思いを馳せ、緊張しながら現地に入りました。町民や職員の心のケアは今も課題ですが、住民と共に復興まちづくりを進め、「減災」「多重防災型」を

渡邊 晃子

方針とし、14・5mの防潮堤、土地の嵩上げや高台移転、災害公営住宅なども整備され、新たな産業として期待される「岩手大槌サーモン」も今年初水揚げされるなど、復興が進んでいます。震災前は子ども達への防災教育はされていなかったのですが、現在では避難所運営を含む緻密な防災学習等により、子ども達が主体的に地域を支えていくという教育方針が印象的です。町全体でも、地域住民と一緒に防災・避難訓練、年2回の自主防災組織連絡会などにより、防災意識を高めることに尽力しています。町と町民が一緒に防災やまちづくりに取り組む姿勢に学びたいと思います。実際現地に立ち、爪痕の大きさに言葉を失いましたが、子ども達の元気な声や笑顔に、復興している「今」を見て、逆に元気をもらいました。二度と大槌のような悲劇を起こさないために、教訓を伝え、生かしてほしい。という大槌町の皆さんの強い思いをしつかりと受け止め、小海の防減災に取り組みたいと思います。



旧大槌町役場跡地で

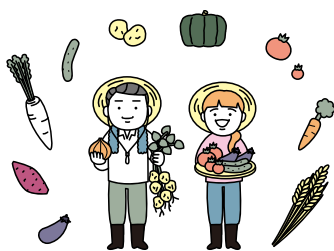
総務産業常任委員会 行政視察レポート

にあればこそ、食育や地産地消を推進する風土が醸成されているのだと感じました。令和5年には、有機農業を生産から消費まで地域ぐるみで取り組みを進める「オーガニックビレッジ宣言」を行い、地産地消や有機農業のさらなる推進を目指していくとのこと。今後の取り組みとして、有機農産物の学校給食への提供、マルシェや講演会等の開催、就農支援を挙げています。

的 埜 美香子

置賜（おきたま）地域、高畠町は米を中心とした稲作、畜産、果樹栽培が盛んな農業王国です。地域に農業が根づいています。「食」というキーワードをもとに、「食と農の町づくり条例」をはじめ、「高畠町食育・地産地消推進計画」を基本に全年齢のライフステージに合わせ、すべての町民が「食」に関心を持ち「食を通じたいきいきとした暮らし」を実現できるよう重点目標が示されています。目標達成のために各課の主要事業を設け各課をまたいで取り組んでいます。

元々「遣伝子組み換えのもの」を町に持ち込まないで！という町民の願いが条例制定となり、町の豊かな農産物や環境を守り続けるという農業政策の独自性の具現化へとつながったのです。



議会改革特別委員会設置

議会改革特別委員会は6月定例会で設置されました。地方議会のなり手不足は全国的に深刻な課題となっており、長野県内、近隣町村でも無投票、定数割れがいくつか見られます。現在小海町では無投票、定数割れは起きておりませんが、近い将来こういった状況に陥る可能性があります。女性、若者が議会に関心を持っていただくよう、こういった課題に向けて研究してまいります。

- 協議事項
 - ① 議員報酬の改定について
 - ② 議員定数について
 - ③ 議会の見える化について
 - ④ 議会 ICT 化について

議会映像配信（You Tube配信）

令和6年12月定例会から一般質問の録画をYou Tubeでご覧いただけます。
また役場庁舎1階と3階においてライブ配信もご覧いただけますので、ぜひお越しください。



編集後記

私の子供のころは、日本が高度成長を迎える時代から、大企業時代が始まりました。

農業は、おやじさん・おふくろさん・妻が行い、夫と息子はサラリーマンという家庭が多く、日曜日には家族全員で農作業をし、土手に座り「おこびり」には塩むすびか味噌むすびという風景が目につかびます。このころの食料自給率は79%ありました。現在は38%です。

輸入に頼ることで食料品もますます高くなっている現状です。日本の自給率向上のため、大規模化は大切と思いますが、家族で小さな農地に作物を作る日本型の農業も大切にしたい。

日本型農業でも、自給率を高める力はあるはず。

東京一極集中の今だからこそ、中山間地の底力を発揮してみたいは…。

（編集委員 井出 幸実）

編集責任者 有坂 辰六
編集委員長 篠原 哲雄
編集委員 篠原 伸男
編集委員 井出 幸実
編集委員 的埜美香子